



1

現状: どんどん増え続ける耕作放棄地にソーラーパネル
下草管理は除草剤

羊飼育
資源の効率的利用による環境問題の解決策の1つ
→ 世界で注目されている

下草刈りのためにヒツジの放牧は有効では？
下草：貴重な植物資源

反芻獣（牛・羊・山羊）が家畜たる所以
人が利用できない雑草を命の根源である蛋白質に変える

2

国内動向

生ラム指向: 急速に進行
羊肉の特質: 健康によい食肉として注目されている

- ・ 脂質に含まれる**コレステロール**が少ない
- ・ **善玉コレステロール**の含有比率が高い
- ・ 脂肪の融点が高い → 体内に脂肪が蓄積しにくい
- ・ **ビタミンB群**や鉄分などの**ミネラル**が他の食肉に比べて多い

羊飼育のメリット

- ・ 粗飼料依存度が高い：食糧問題の深刻化を緩和する食肉
- ・ 羊毛・羊肉を同時に生産できる
- ・ 羊乳、毛皮等、多様な生産物を生み出す
- ・ 狭い草地や遊休耕地で飼育が可能

3

生ラム指向が急速に進行

昔：マトン（2歳以上の羊肉）が主流
今：生ラム（1歳未満の羊肉）が主流
そのおいしさに目覚めた人々→生ラム指向が急速に広がる

概算合計数：913 店

1位：北海道	324店	35.4%
2位：東京	179店	19.6%
3位：神奈川県	36店	3.9%
4位：千葉	32店	3.5%
4位：大阪	32店	3.5%

“ラムバサダー”のHP
2011年から2021年の7年間で、羊肉レストランは2.4倍に増加

4

日本で流通する羊肉

“LIFE with 羊”のホームページによると、日本で流通する羊肉のうち国産は1%もなく、オーストラリアとニュージーランドからの輸入が98%を占めています。わずかな国産羊肉は高級レストランなどに買い取られてしまい、一般に流通することはほとんどないと言われています。オーストラリアやニュージーランドでは肉牛も放牧主体のグラスフェッド（草だけで飼育）で飼われた健康的な肉ですが、羊も同様に健康的な飼育方法が採られています。

5

日本で流通する羊肉の国別内訳

国産肉は供給不足で高級料亭が独占

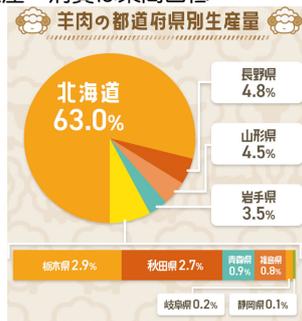
フランス	0.4%
日本	0.6%
アメリカ	0.01%
アイスランド	1.0%
ニュージーランド	35.0%
オーストラリア	63.0%
その他外国	0.004%

生産・消費は東高西低

6

日本の羊の飼育頭数：12000頭（2010）＝世界第158位
 国産羊肉の生産地ベスト5：生産・消費は東高西低

- 1位：北海道（63%）
- 2位：長野県（4.8%）
- 3位：山形県（4.5%）
- 4位：岩手県（3.5%）
- 5位：栃木県（2.9%）



圧倒的生産量を誇る北海道を中心に東日本に大きく偏る
 ＝愛知県あたりを境とした食文化の違いの影響？

国内で主に飼育されている羊：サフォーク（肉用種）



7

どうやって羊を飼うのか (1)

羊の採食量：体重500kgの牛の約1割

→ 牛のように広い土地は不必要

草の種類：繁殖羊＝雑草で十分

肥育羊＝雑草、場合によっては稲科牧草

繁殖：季節繁殖

繁殖適期：9月～10月、最長で2月頃まで

妊娠期間：5ヶ月

ex) 9月に妊娠→2月分娩、2月に妊娠→7月分娩

産子数：1～3頭

肥育：生後1年弱飼育して出荷



8

どうやって羊を飼うのか (2)

遊休耕地を利用する場合

電気牧柵で1町歩（1ha）を囲うには15～25万円程度

イノシシや熊に対する対策は必要

水の供給手段確保

冬季の飼料確保

冬季の飼料を別途作製→1町歩で羊10頭程度飼育可能

ソーラーパネルの下で飼育する場合

パネルの脚を高くする（山羊ほどのジャンプ力はないが）

嚙り防止：ケーブル類の保護

ソーラーパネルは周囲に柵→電気牧柵などは必要なし

学校や公園など草刈りの必要な場所で飼育する場合

番線やアンカーを設置し＝羊が草刈り



9

どうやって羊を飼うのか (3)

羊の習性：群れを作る動物

大きな群れが暴走すると手がつけられない

個体や小頭数の管理は楽

飼育の手間：羊は手間暇かけなくても飼える動物

→畜産や農業の片手間でも飼育可能

日本の羊産業は今からが発展時期

パイオニアとして最先端を行ける

柳の下のドジョウは少ない＝早い者勝ち

少子化と円安、産業基盤の弱体化などで
 産業構造を変えざるを得ない
 → 新しいチャレンジも必要



10

まとめ

羊肉は世界的に見直されている
 狭い土地で粗放的に飼育できる

牛をやめるなら
 羊を飼おう！



11